

～障害者差別のない『おおつ』を目指して～  
「発災時の避難(所)などでの障害のある方との助け合いを学ぶ」

於 浜大津明日都 4 階ホール  
精神障害 ピアサポート WISH  
福山勝広

☆精神障がい者が災害の時どのような困りごとがあるかについて～

① 平常でも精神のバランスを崩しがちで、常に不安を抱えているのに、大きな災害が起きたらバランスを完全に崩し、大きく症状が出る可能性が極めて大きいということ

・精神障がい者は日常生活においても、常に病状と不安の中で、針を振り切りギリギリのところ、薬と治療で何とかバランスを保っている

・大きな災害に見舞われた場合、常に針が振り切れかけている精神障がい者は、大きくバランスを崩し、強い症状が出る可能性が高い

・ひとくくりに精神障害と言っても、気分障がいのそううつやうつ、統合失調などの病状によっても、出てくる症状は様々だが、おしなべて病状が悪化することは確実

・精神障がい者は、目には見えないけれども、重傷者が救急車で運ばれるように、心の傷を負い、皆さんの手厚い手当て・配慮が必要だということ

・特に避難所においては、騒然とした環境の中で、精神障がい者は大変な不安と葛藤を抱えている。精神のバランスを崩し、リストカットなど自傷行為をしたくなったり、災害の先に不安を感じ、死にたくなっているかもしれない、そういう不安を抱えている精神障がい者がいるということをまず知っていただいて、支援の合間の目配りや声掛けなどをできるだけお願いしたい

② 災害が起きて取るものもとらずに避難したら、日常飲んでいる薬をどうするかという問題

・日常精神障がい者は、毎日の薬でバランスを保っている人が多く、薬がないと確実に精神のバランスを失い、体調を崩す

・幸い、今は災害時への準備が進んで、避難所には精神に限らず薬を常備しておく制度があるが、それがどの程度で、どこまで行き届くのかはわからない。またそれをどうやって具体的に避難している精神障がい者に届けるのかというのが課題であるということを、支援者の方は知っていてほしい。

・当事者としては、災害に備えて、薬を枕元やできるだけわかりやすい位置において、できれば薬をもって避難するよう促し、友人やグループの仲間などに周知したいと思います。

③ 大きな災害が起きてても、避難所の生活に不安を感じ、危険が迫っていても避難しようとしないのではないかということ

・精神障がい者の方は、環境や人間関係に敏感で、こだわりのある人が多く、少しでも気に入らないところがあると受け容れられなかったり、不安を感じる人が少なくない。

・例えば、地震で自宅が倒壊しかけていたり、水害が迫っているなど、自宅にいると明らかに命におよぶ危険がある場合は、消防の方など、できるだけ避難を促し、場合によっては無理やりにも避難させてほしい。

④ 大きな問題として、自分が精神障がい者だということが周りに知られるのを恐れて、「避難行動要支援者名簿に載せてもらおうとしない人が少なからずいる」という問題

・災害の時、命を守るためには名簿への掲載は必要で、その個人情報も適切かつ厳格に扱われるんだという空気を、社会・地域の中に浸透させていくことが重要

・精神障がい者という個人情報が、災害のため以外に扱われたり、まして地域の人に知れて興味本位のうわさになるようなことがあっては、決してならない。

以上4点に絞って述べましたが、

精神に限らず障がい者は、一般の人より確実に多くの強い支援が必要です。

また、寸断された地域医療にどう対応するのかということも問題です。

ともかく災害という、すべてが錯綜し、大変になる状況で、一般の方も命からがら逃げる中でのことですが、そのような中で、元気な人と一緒に逃げないと確実に失われる命があるということを、心ある人、特に民生委員さんや消防・行政スタッフなどの方には知っていただき、もう一歩踏み込んだ支援をお願いしたいと思います。

どうかよろしく申し上げます。